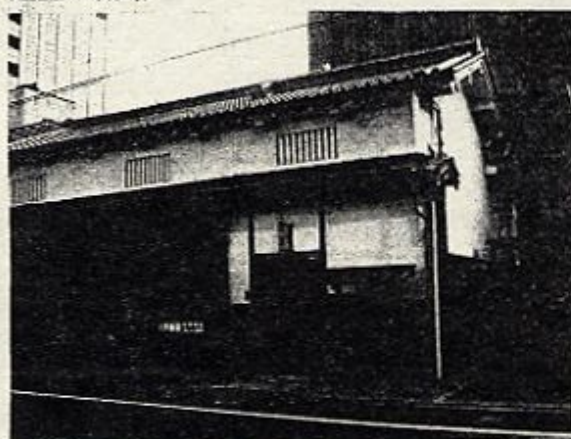


適塾の概略



【適塾】

適塾は、蘭学者緒方洪庵(おがたこうあん)(1810年～1863年)が、天保9年(1838年)に開設し、文久2年(1862年)に幕府の奥医師として江戸に迎えられまでの24年間にわたって日本全土から集まった門人約1,000名に蘭学・医学を教えた学塾です。

塾生には、幕末から明治にかけての日本の近代化に貢献した、橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、長興専斎、高松凌雲、佐野常民、大島圭介ら多くの人材が名前を連ねています。

適塾は、昭和15年(1940)大阪府の史跡、昭和16年(1941)国の史跡、昭和39年(1964)に重要文化財に指定され、その後文化庁によって解体修復工事(昭和51年(1976)～昭和55年(1980))が行われ、洪庵居住当時の姿に復原されました。

この適塾は、我が国の蘭学発展の拠点になった歴史を伝えるばかりか、当時の大阪北浜の町屋の姿を示す貴重な建物です。

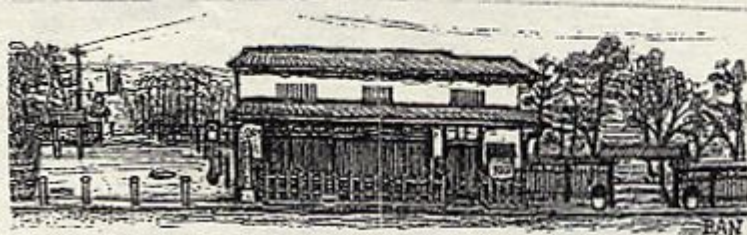
適塾の教育

適塾における教育の中心は蘭書の会読でしたがこの予習のために塾生が使用した辞書がゾーフ辞書(…長崎出島のオランダ商館長ゾーフがハルマの蘭仏辞書によって作成した蘭和辞書)であり、当時は極めて貴重で適塾にも一部しかなく塾生はゾーフ部屋と呼ばれる部屋につめかけ奪い合って使用していました。



【緒方洪庵像と適塾の建物】

塾生の勉強は他塾とは比較にならないほどはげしいものがあり、福沢諭吉は自ら述懐して、およそ勉強ということについては、この上にもしようもないほど勉強したといっている。



【適塾全景(パンフレット引用)】